新登録答申文化財概要（三重県）

- **森玄佺家住宅　（四日市市）**

【名　　称】**森玄佺家住宅主屋**

もりげんせんけじゅうたく おもや

【種　　別】国登録有形文化財（建造物）

【所 在 地】三重県四日市市羽津山町甲

【年　　代】明治 16 年

【建築面積】406 ㎡

羽津病院（現・四日市羽津医療センター）の創設者である森家の住宅です。森家は中世から続く名家で、江戸時代以降は名医として知られ、当主は代々「玄佺（げんせん）」を襲名しています。漢方薬「鎮驚丸（ちんきょうがん）」の製造も受け継がれています。

森玄佺家住宅主屋は、四日市羽津医療センターに隣接する敷地内にあります。十七世森玄佺景照（けいしょう・1853−1895 年）が明治 16 年に建設した木造平屋建（一部二階建）、入母屋造（いりもやづくり）の居宅で、正面に入母屋造の式台玄関（しきだいげんかん）を設けています。間取りは東側に土間（現在は一部床上に改造）、西側に３列３室と茶室、つし二階に２室を設け、当時の民家建築としては規模が大きいものです。最も格の高い「ブツマ」と「神棚之間」は長押（なげし）をまわして格天井（ごうてんじょう）を張っています。その他の部屋も、差鴨居（さしがもい）と竿縁天井（さおぶちてんじょう）、差鴨居（さしがもい）と根太天井（ねだてんじょう）など部屋ごとに組み合わせを変え、意匠を凝らしています。規模が大きく、質の高い意匠の邸宅となっており、名家の風格を今に伝えています。



主屋（南から・左奥は四日市羽津医療センター）



式台玄関（南から）



ブツマ



差鴨居と竿縁天井

新登録答申文化財概要（三重県）

● 朝日館　（伊勢市）

【名　　称】**朝日館第一別館・清風荘・内蔵・南蔵・清風荘門及び塀**
あさひかん　だいいちべっかん・せいふうそう・うちぐら・みなみぐら・
せいふうそうもんおよびへい

【種　　別】国登録有形文化財（建造物）

【所 在 地】三重県伊勢市二見町茶屋

【年　　代】第一別館：昭和前期、清風荘：昭和 11 年、内蔵：明治後期、南蔵：昭和 28 年頃
清風荘門及び塀：昭和 11 年頃

【建築面積】第一別館：527 ㎡、清風荘：400 ㎡、内蔵：40 ㎡、南蔵：101 ㎡
清風荘門及び塀：間口 3.2m、総延長 38m

朝日館は二見浦に面した旅館で、旅館街のほぼ西端にあります。江戸時代には参宮する大名の本陣をつとめ、二見浦が大衆的な観光地として発展した明治時代に現在の場所に移転しました。本館は昭和 33 年(1958)頃に建て替えられましたが、第一別館、清風荘（第二別館）は現在も旅館の客室として使用されています。

第一別館と清風荘はいずれも南北棟の入母屋造（いりもやづくり）桟瓦葺の建物で、各棟にそれぞれ独立した玄関があります。第一別館の「富士の間」は格天井（ごうてんじょう）の 100 畳間で、眺望を重視して海が見える北側と東側を開放し、街路側の南側に舞台を、西側に床の間を設けています。清風荘には、貴賓の利用にあてる「雲井の間」と控えの「高砂の間」が設けられています。

海を臨んで連なる長大な朝日館は、二見旅館街の典型となるもので、二見浦の景観を形成する重要な建造物です。



第一別館（南東から）



門及び塀・内蔵（南から）



第一別館　富士の間



清風荘　雲井の間